

2018. 5. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成30年6月5日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《5月のおはなし会で使った本》

『ぼんぼんポコポコ』 長谷川義史/作絵 金の星社 2007

『ぞうさんきかんしゃぼっぼっぼ』（紙芝居） とよたかずひこ/脚本・絵 童心社 2017

『どうすればいいのかな?』 わたなべしげお/ぶん おおともやすお/え 福音館書店 1988

『ぞうくんのさんぽ』（大型本） なかのひろたか/さく・え 福音館書店 1999

★子どもと本をつなぐスキルアップ講座

第1回 ○日時：平成30年6月10日（日）13：30～16：00

○演題：「ブックトークをしてみよう！」～講師によるブックトークの実演「ようこそ図書館へ」～

○講師：小林 いづみ氏（呉ストーリーテリング研究会代表）

第2回 ○日時：平成30年7月7日（土）13：30～15：30

○演題：「わらべうたあそびでコミュニケーションを」～乳幼児から小学低学年まで～

○講師：加藤 ときえ氏（わらべっ子の集い代表）

いずれも ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：子ども読書ボランティア、公共図書館職員、幼稚園教諭、保育士、学校図書館関係者等

○定員：各回60名（要申込み・先着順）○参加費：無料○申込方法：各開催日の1週間前までに、電話、FAX、Eメールで申込み

★幼稚園・保育園のための子ども読書研修会

○日時：平成30年6月23日（土）13：00～15：00 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○講師：徳永 満理氏（社会福祉法人おさなご保育園理事長）

○演題：「絵本と子どもが出会ったら～イメージを育てる読み聞かせ～」

○対象：県内の幼稚園教諭、保育士等 ○定員：60名（要申込み・先着順）

○申込方法：平成30年6月15日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『あかちゃんごたどりえほん ぶっぶーがおー』 かしわらあきお/作・絵 主婦の友社 2018.4 ¥1280

車が線の上を「ぶっぶー」と出発！「かおーがおー」と叫ぶ恐竜や、「わんわん」と鳴く犬の上を通過して、車はどこまで行くのかな？赤ちゃんの指に手を添えて、でこぼこ線の上をたどって楽しむ赤ちゃん絵本。「わんわん」「ぶっぶー」「にゃんにゃん」など、「あかちゃんが早く言える擬音語ランキングTOP65」から作られている。同時刊行に『あかちゃんごたどりえほん ふーふーぼい』

<絵本-3, 4歳から>

『チトくんとにぎやかないちば』 アティヌーケ/文 アンジェラ・ブルックスバンク/絵 さくまゆみこ/訳 徳間書店 2018.3 ¥1600

お母さんにおんぶされて市場にやってきたチト。お母さんの背中のチトを見ると、市場の人たちは次々に、チトにバナナやココナッツをくれた。みんなからもらった食べ物をひとつずつ食べて、残りはお母さんの頭の上のかごにぽいっと入れるチト。西アフリカの人々のおおらかな優しさや、色彩豊かな市場のにぎわいの様子が伝わってくる。読み聞かせに向く絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『さとやまさん』 工藤直子/文 今森光彦/写真 アリス館 2018.4 ¥1500

日本の美しい里山の風景。田んぼ、田舎の明るい木立や植物、そこで暮らす小動物や虫たち。里山の春夏秋冬の様子を、今森光彦の美しい写真と工藤直子の楽しい言葉で紹介する。里山を「さとやまさん」と擬人化し、人に親しい存在として語りかけている。新沢としこ作曲「さとやまさん」の楽譜も掲載。写真と詩文が見事に調和した写真絵本。

『すずちゃんののうみそ-自閉症スペクトラム(ASD)のすずちゃんの、ママからのおてがみ』 竹山美奈子/文 三木葉苗/絵 岩崎書店 2018.1 ¥1600

「すずちゃん、どうしてしゃべれないの？」自閉症スペクトラムのすずちゃんについて、不思議に思う保育園の子どもたち。「自分とは違うけど、仲良くしよう」としてくれた保育園の子どもと先生たちへの感謝をこめて、すずちゃんママが手作りした紙芝居の絵本化。自閉症について、幼い子でもわかりやすく説明されている。巻末には自閉症の特徴の解説あり。

＜絵本―小学校中学年から＞

『マルコとパーダウン症のあるむすことぼくのスケッチブック』 グスティ/作・絵 宇野和美/訳 偕成社 2018.2 ¥2800

ダウン症の息子マルコが生まれた。父親である自分は、最初はマルコを受け入れられなかった。でも妻や8歳の息子テオは、何の問題もなくマルコを受け入れた。ダウン症の息子を持った自分の気持ちの変化、家族や周囲の言葉、マルコを受け入れてからの愛しい日々を、イラストレーターが率直に描いた一冊。2016年ボローニャ・ラガッツィ賞障害の本部門最優秀賞作。

＜絵本―小学校高学年から＞

『もしぼくが本だったら』 ジョゼ・ジョルジュ・レトリア/ぶん アンドレ・レトリア/え 宇野和美/やく KTC中央出版 2018.3 ¥1800

「もしぼくが本だったら はてしない海へひらかれた窓になりたい。」現代的でウィットに富むイラストと、「もしぼくが本だったら…」ではじまる詩的な文章が、全見開きに描かれる。本が持つ力や読書の豊かさ、素晴らしさが伝わってくる。詩人である父親の文章に、イラストレーターの息子が絵をつけたポルトガル生まれの絵本。大人にも薦めたい「本」をテーマにした一冊。

＜読み物―小学校低学年から＞

『コクルおばあさんとねこ』 フィリパ・ピアス/作 アントニー・メイトランド/絵 前田三恵子/訳 徳間書店 2018.4 ¥1300

ロンドンに住むコクルおばあさんは、猫のピーターと二人暮らし。街角で風船を売り、二人がどうにか過ごせるだけのお金を稼いでいた。ある日、ピーターが家出してしまい、心配したおばあさんはやせ細り、とうとう売り物の風船と共に、強風に吹かれ、雲の上まで舞い上げられてしまうことに。『おばあさん空をとぶ』（文研出版 1972年刊）の改題改訂版。

＜読み物―小学校中学年から＞

『マネキンさんがきた』 村中季衣/作 武田美穂/絵 BL出版 2018.4 ¥1300

川でマネキンの頭部を持った小4のサトシとトオル。担任を驚かそうと学校に持ってきたものの、その後の処理に困り、クラスの一員として教室に置いておくことに。その「マネキンさん」と一緒に、参観日の授業でダンスを踊ることになったのが、誰ともしやべらず、汚いといつもからかわれているみほこだった。岡山で起こった本当の出来事を元に書かれたお話。作者は山陽小野田市在住。

＜読み物―小学校高学年から＞

『さよなら、ぼくらの千代商店』 中山聖子/作 岩崎書店 2018.2 ¥1400

塾を無断で休んだ英太。普通の家の子に生まれたかった嬉々。昔の方が良かったと嘆く美織。体の不自由なお母さんを守りたい翔也。ここではないどこかへ行きたい4人の小学生の前に突然現れた水色の小さなバス。そのバスが向かった先にあったものは…。4人の小学生に起きた、奇跡の物語。『毎日小学生新聞』連載を改題、加筆修正。作者は宇部市在住。

＜読み物―中学生から＞

『ひとりじゃないよ、ぼくがいる』 サイモン・フレンチ/作 野の水生/訳 福音館書店 2018.3 ¥1700

オーストラリアの田舎町に住む11歳のキーランの学校に、いとこのボンがやってきた。風変わりなボンはぼくらのいじめの標的に。おまけにぼくの部屋に定期的に泊まりに来ることになり…。恵まれた家庭に育った「ぼく」が葛藤しながら、家族に問題を抱えたボンを理解し、いじめグループから抜け出す過程を描く。子どもを取り巻く困難な現実を目を向けた作品。

＜ノンフィクション―小学校中学年から＞

『まんがでわかる!強くなる将棋』 湯川博士/執筆 羽生善治/監修 学研プラス 2018.4 ¥4000

中学生プロ棋士の誕生で盛り上がる将棋界で、人気の国民栄誉賞受賞棋士羽生善治永世七冠による監修。将棋が強くなるヒケツ、基本のルールから実戦で使える戦法・格言までを、盤面図やイラスト、まんがを交えてわかりやすく解説。巻頭のインタビューでは、親しみがもてる子どものころのエピソードや、小学生へのアドバイスが語られる、将棋入門本。

＜ノンフィクション―小学校高学年から＞

『NHK プロフェッショナル仕事の流儀1 革新をもとめるプロフェッショナル』 NHK「プロフェッショナル」制作班/編 ポプラ社 2018.4 ¥2000

さまざまな分野の第一線で活躍するプロフェッショナルたちの「仕事」を掘り下げ、彼らの仕事に臨む姿勢や、生き方を貫く「流儀」を紹介する。第1巻は自分の仕事に徹底的に向き合い、その仕事に新しい息吹を吹き込んだ6人を取り上げる。各ストーリーの最後には、プロフェッショナルたちの格言を掲載。NHK番組「プロフェッショナル仕事の流儀」の書籍化。全8巻。

＜ノンフィクション―中学生から＞

『かならずお返事書かからね』 ケイトリン・アリフィレンカ、マーティン・ギャンダ/著 リズ・ウェルチ/編 大浦千鶴子/訳 PHP研究所 2018.3 ¥1600

中1の英語の課題で外国に住む同年代の子と文通をすることになったアメリカの少女、ケイトリン。相手はジンバブエの2歳年上の少年、マーティン。勉強よりファッションや男の子に関心のある普通の女の子が、手紙を通してジンバブエの貧困の実情を知り、彼の勉学が続けられるよう家族ぐるみで支援していくことに…。友情を育み、互いに成長していった手紙のやり取りを収録した実話。

＜研究書＞

『過去六年間を顧みて かこさとし小学校卒業のときの絵日記』 かこさとし/著 偕成社 2018.3 ¥1600

2018年5月2日に92歳で亡くなった、かこさとし（本名・中島哲 なかじまさとし）の6年間を振り返った小学卒業時の絵日記に、当時の思い出を語った「聞き書き」を添える。福井県の武生で小2まで過ごし、東京の板橋へ転校したときの学校の様子、次第に戦時色に包まれていく時代を生きた少年のありのままの姿が浮かび上がる。文集の全頁も収録。あとがきで父への思いを語る。

『ヴァージニア・リー・パートンの世界 『ちいさいうち』『せいめいのれきし』の作者』 ギャラリーエークウッド/編 小学館 2018.3 ¥1900

数多くの名作絵本を残したアメリカの絵本作家パートンの、絵本の原画やスケッチ、デザインを通して彼女の絵の魅力に迫る。画面いっぱいにも拡大された数々の作品がパートンの世界をインパクトのある形で伝えている。「ちいさいうち」試作絵本全ページ、テキスタイルのデザイン、秘蔵スケッチなど、フルカラーで収録する。日本初公開の貴重な資料が満載。